

# 資料3



ラグビーワールドカップ2019花園開催  
誘致から開催に向けて



HIGASHIOSKA CITY

# 目次

1. 誘致決定までの本市の取組み・・・2～6P
2. ラグビーワールドカップとは・・・7～12P
3. 今後の本市の取組み・・・・・・・・・・13～14P



# 1. 誘致決定までの本市の取組み①

## ■平成22年度

●4月1日 ラグビーワールドカップ誘致室の設置



●6月1日 ラガーシャツ着用の奨励



●5月5日 ラグビーワールドカップ誘致署名活動の開始



●1月25日 オリジナルナンバープレートの配布



# 1. 誘致決定までの本市の取組み②

## ■平成23年度

●5月23日 森会長へ署名提出



●9月12日～ 小学校におけるタグラグビーの実施



●9月10日・16日、10月23日  
ラグビーワールドカップ応援スポーツバー開設



●11月9日・10日 テクノメッセ東大阪2011



# 1. 誘致決定までの本市の取組み③

## ■平成24年度

- 7月2日 日新高校アナウンス研修



- 歓迎用イルミネーションの実施



- ラグーシャツを着用し、「愛ガード運動」を実施



- 12月27日 第92回全国高等学校ラグビーフットボール大会において人文字の実施



# 1. 誘致決定までの本市の取組み④

## ■平成25年度

●6月8日 日本代表VSウェールズ代表



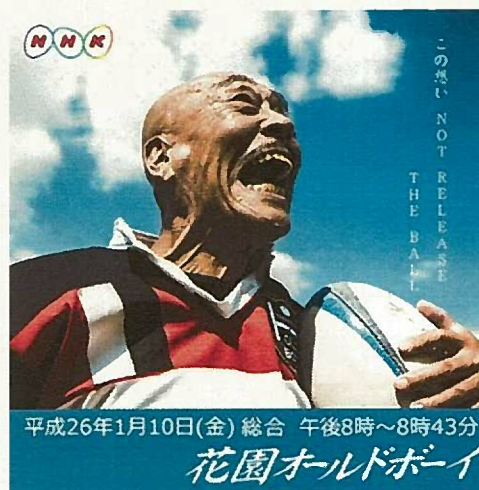
●7月3日 市民公募により新ラグーシャツデザインが決定



●「ラグビーのまち東大阪」(4回目)を実施



●1月10日 地域ドラマ『花園オールドボーイ』の放送



# 1. 誘致決定までの本市の取組み⑤

## ■平成26年度

●4月28日 成功議員連盟視察



●7月16日 toto助成金交付式



**祝！ラグビーワールドカップ2019  
聖地花園開催決定！！**



## 2. ラグビーワールドカップとは①

### (1)ラグビーの現況

- ▶ 競技人口：世界で500万人。日本では12万人  
→小学生から高齢者までが楽しむスポーツ。
- ▶ WR(ワールドラグビー)には、117か国(地域)が加盟。
- ▶ 世界の強豪はヨーロッパ6カ国、南半球4カ国。  
→ 日本は現在世界ランキング11位。
- ▶ 2016年リオ五輪より7人制ラグビーが男女共に正式種目となる。2019日本大会は、ラグビーオリンピック入り後の初のワールドカップとなる。



## 2. ラグビーワールドカップとは②

### (2)ラグビーワールドカップの歴史

1987年に第1回大会がニュージーランド、オーストラリア共催で行われ、その後、2011年のニュージーランド大会まで、7回開催される。

- 第1回 1987年 ニュージーランド・オーストラリア共催
- 第2回 1991年 英国(イングランド)
- 第3回 1995年 南アフリカ
- 第4回 1999年 英国(ウェールズ)
- 第5回 2003年 オーストラリア
- 第6回 2007年 フランス
- 第7回 2011年 ニュージーランド
- 第8回 2015年 英国(イングランド)

★第9回 2019年 日本



## 2. ラグビーワールドカップとは③

### (3)ラグビーワールドカップ 2019①

**開催期間**

: 2019年9月～10月

**試合数**

: 48試合

(予選プール40試合・決勝トーナメント8試合)

**大会の特徴**

- ①アジアで初のラグビーワールドカップ
- ②ラグビー伝統国以外で初のラグビーワールドカップ
- ③ラグビー(7人制)がオリンピック種目に採用されてから最初の大会

## 2. ラグビーワールドカップとは④

### (3) ラグビーワールドカップ 2019②

#### 開催都市 : 日本全国12会場



## 2. ラグビーワールドカップとは⑤

### (4) 開催メリット

#### 1. 開催都市プロモーション効果

知名度向上により、開催都市には持続的な観光客増が期待され、翌年の東京オリンピックとの相乗効果へつながる。

#### 2. 経済波及効果

40万人の外国人来訪者（<sup>\*</sup>他スポーツより所得層が高い。）が長期滞在（平均24日・1都市平均6日間×4都市）。

日本全体での経済波及効果は1,200億円。

1都市100億？  
(日本ラグビー)

#### 3. 地域活性化

地域がラグビーを通じて世界との接点を持ち、活性化される。



## 2. ラグビーワールドカップとは⑥

### (5) 数字でみるラグビーワールドカップ(2015年イングランド大会より)

#### ➤ 直接効果

観客による売り上げ

→約1,633億7,200万円

インフラ投資額

→約159億8,000万円

スタジアムでの売り上げ

→約24億4,400万円

海外からの観客のチケット売り上げ

→約127億8,400万円

ファンゾーンでの売り上げ

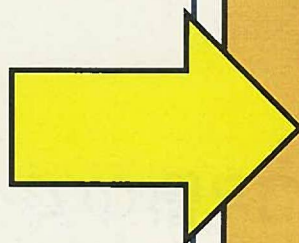
→約9億4,000万円

+

#### ➤ 間接・波及効果

雇用増加等を通じた効果

→約2,190億2,000万円



**RWC2015**  
**経済効果(予測)**  
**最大**  
**約4141億6400万円**

大会日数→44日

海外からの観客による支出総額→約1,633億7,200万円

海外からの渡航客→46万6,000人

チケット販売数→230万枚

公式Facebookファン登録数→235万人

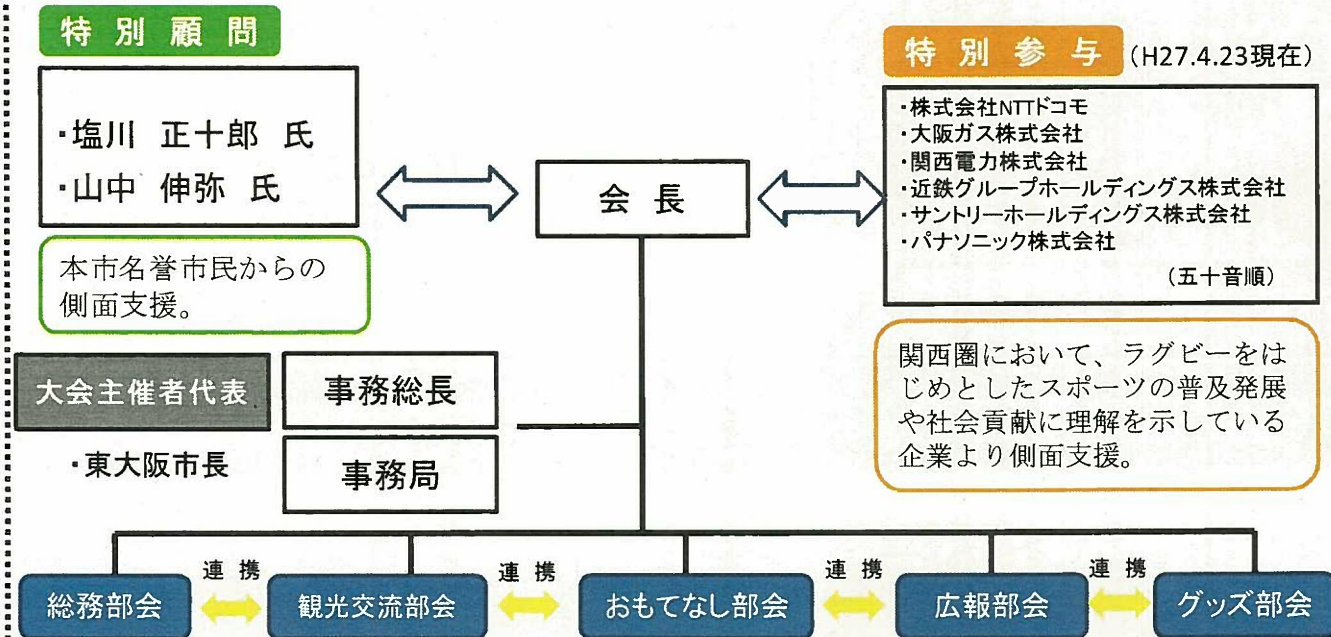
参加ボランティア→6,000人

### 3. 今後の本市の取組み①

#### (1) 花園ラグビー場みらい魅力活性化委員会

**【目的】** :自治会、企業、関係団体など幅広い組織化を図り、本市固有の都市アイデンティティ（東大阪市らしさ）の確立を推進し、ラグビーワールドカップ2019花園開催の成功と共に、大阪・東大阪の魅力を発信する企業マッチングの場として設立するもの。

#### 【組織図】



H27年4月23日  
花園ラグビーみらい魅力活性化委員会の発足時

→ 東大阪市内の観光ルートの確立

### 3. 今後の本市の取組み②

## (2)ラグビーワールドカップ2015

ラグビーワールドカップ2015は、イングランドの南岸都市ブライトンから、中部のレスター、そして北部のニューカッスルまでの広い地域にまたがる11都市の13会場で開催。

この地域の広がりや、経済的な恩恵が広く共有されることを意味すると同時に、英国内のラグビーファンにとっては、応援チームの試合を気軽に観戦することを可能に。

○本市においてもラグビーワールドカップ2015日本戦のパブリックビューイングを実施予定。

